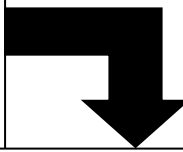


【的中問題！】 一部ご紹介致します！

大原：公開模擬試験－第19問

情報処理推進機構（I P A）は「中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン（第3版）」を公開している。このガイドラインの中で述べられている「詳細リスク分析」に関する記述として、最も適切なものはどれか。解答は問19へマークせよ。

- ア 「リスクを保有する」とは、仕事のやり方を変える、情報システムの利用方法を変えるなどして、想定されるリスクそのものをなくすことである。
- イ 「リスクを低減する」とは、自社よりも有効な対策を行っている、あるいは補償能力がある他社のサービスを利用することで自社の負担を下げることである。
- ウ 「リスクを回避する」とは、自社で実行できる情報セキュリティ対策を導入ないし強化することで、脆弱性を改善し、事故が起こる可能性を下げることである。
- エ 「リスクを移転する」とは、事故が発生しても受容できる、あるいは対策にかかる費用が損害額を上回る場合などは対策を講じず、現状を維持することである。
- オ 「詳細リスク分析」以外に、ベースラインアプローチ、非形式的アプローチ、組合せアプローチの方法が I S O / I E C に示されている。



本試験：第17問

情報セキュリティマネジメントにおいては、情報セキュリティリスクアセスメントの結果に基づいて、リスク対応のプロセスを決定する必要がある。

リスク対応に関する記述とその用語の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

- a リスクを伴う活動の停止やリスク要因の根本的排除により、当該リスクが発生しない状態にする。
- b リスク要因の予防や被害拡大防止措置を講じることにより、当該リスクの発生確率や損失を減じる。
- c リスクが受容可能な場合や対策費用が損害額を上回るような場合には、あえて何も対策を講じない。
- d 保険に加入したり、業務をアウトソーシングするなどして、他者との間でリスクを分散する。

【解答群】

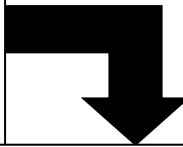
- | | | | | |
|---|---------|---------|---------|---------|
| ア | a：リスク移転 | b：リスク低減 | c：リスク回避 | d：リスク保有 |
| イ | a：リスク移転 | b：リスク保有 | c：リスク回避 | d：リスク低減 |
| ウ | a：リスク回避 | b：リスク移転 | c：リスク保有 | d：リスク低減 |
| エ | a：リスク回避 | b：リスク低減 | c：リスク保有 | d：リスク移転 |
| オ | a：リスク低減 | b：リスク回避 | c：リスク移転 | d：リスク保有 |

大原：公開模擬試験－第17問

A社では、情報システム開発プロジェクトが進行中であり、プロジェクト期間の80%を経過した時点での進捗率が70%、完成時総予算が1,000万円であり、発生したコストは875万円である。今後もこのコストの傾向が継続するものとする。現時点におけるコスト効率指数であるC P I（Cost Performance Index、 $C P I = E V / A C$ ）の計算結果として、最も適切なものはどれか。解答は問17へマークせよ。

なお、E V（Earned Value）は出来高実績値、A C（Actual Cost）はコスト実績値を表す。

- ア 0.6
- イ 0.7
- ウ 0.8
- エ 0.85
- オ 0.875



本試験：第19問

中小企業A社では、基幹業務系システムの刷新プロジェクトを進めている。先月のプロジェクト会議で、P V（出来高計画値）が1,200万円、A C（コスト実績値）が800万円、E V（出来高実績値）が600万円であることが報告された。

このとき、コスト効率指数(C P I)とスケジュール効率指数(S P I)に関する記述として、最も適切なものはどれか。

- ア C P I は 0.50 であり、S P I は 0.67 である。
- イ C P I は 0.50 であり、S P I は 0.75 である。
- ウ C P I は 0.67 であり、S P I は 0.50 である。
- エ C P I は 0.67 であり、S P I は 0.75 である。
- オ C P I は 0.75 であり、S P I は 0.50 である。

⑥ 経営情報システム

【総評】

令和4年度の本試験は、近年の設問数と同じで25問であり、そのすべてが昨年と同様5肢択一の問題であった。難度が高かった昨年度と比べると、基本的な問題や、正解を絞り込むことができる問題も多く、比較的取り組みやすかったと思われる。

出題形式では、一昨年度以前の数年間は出題がなかった「aとb」のような組み合わせを選ぶ問題が8問出題された（昨年は5問）。

出題の分野別内訳を見ると、概ね前半の第1問～第12問が情報通信技術に関する基礎的知識、後半の第13問～第25問が経営情報管理の出題である。特徴を列挙すると、①時事問題・最新の内容の出題がある（第4問のデータレイク、第9問のデジタル産業を構成する企業の類型など）、②確実な知識で正解を絞り込むことができる問題が出題されている、③統計問題にて、データ分析の計算問題が出題されている、④過去出題された内容が部分的に散在して出題されている（例：第11問のクラス図は平成30年度第20問で出題されている、第13問アの DevOps は令和元年度第17問で出題されている）ことである。経営情報システムは、難度のばらつきが大きい科目であるが、正解すべき問題、適切・不適切な選択肢について、基礎知識をフル活用しつつ、選択肢間の関係も視野に入れて選択・削除できる力が求められる。

（情報通信技術に関する基礎的知識）

第5問（SQL）、第7問（通信プロトコル）、第8問（IPアドレス・ドメイン）、第12問（コンピュータシステムの能力向上）などは正解したい問題である。また、第2問のデータ構造の問題は、落ち着いて問題を読み解くことが出来れば、正解することができたと思われる。

（経営情報管理）

第13問（システム開発方法論）、第17問（リスク対応）、第18問（コスト効率指数）、第20問（デジタル署名）、第21問（情報システムの評価）、第24問（母平均と母分散の推定値）などは正解したい問題である。

以上